

各学力調査の対象学年・教科

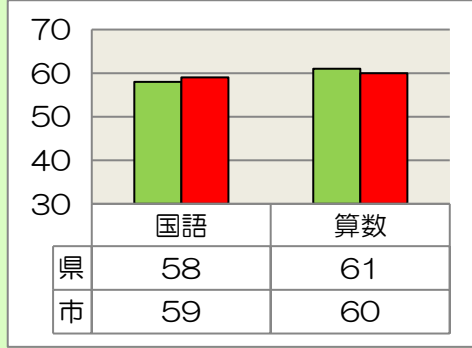
- ◇長崎県学力調査
  - 小学5年生（国・算）
  - 小学6年生（理）
  - 中学2年生（国・数）
- ◇全国学力・学習状況調査
  - 小学6年生（国・算）
  - 中学3年生（国・数・英）

※県・全国学力調査の結果は正答率を示しています。

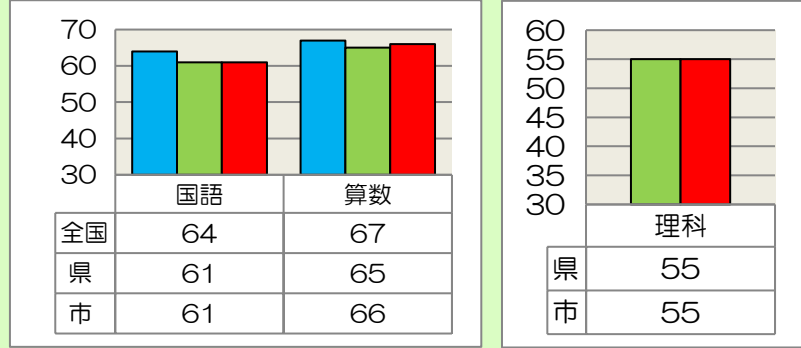
各学力調査の実施日

- ◇長崎県学力調査
  - 平成31年4月18日（木）
- ◇全国学力・学習状況調査
  - 平成31年4月18日（木）

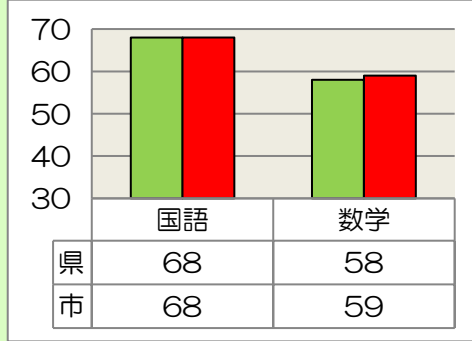
【 小学5年生 】



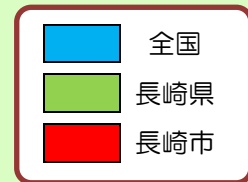
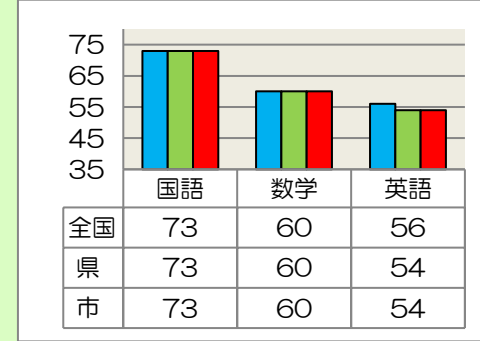
【 小学6年生 】



【 中学2年生 】



【 中学3年生 】



全国学力・学習状況調査結果の概要と改善の方向性

1 学力調査結果の概要

(1) 良好な項目

- 小学校国語では、文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題で改善が見られた。中学校国語では、特に話合いの問題や方向を捉えて自分の考えをもつ問題で成果が見られた。
- 小学校算数では、根拠を基に、求め方を説明したり、理由を書いたりする記述問題において、少しずつ改善が見られた。中学校数学では、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに成果が見られた。
- 中学校英語では、「聞くこと」において、日常的な課題について情報を正確に聞き取る問題で成果が見られた。

(2) 課題がある項目

- 小学校国語では、漢字の問題や自分の考えをまとめる問題に特に課題が見られた。中学校国語では、封筒の書き方を理解して書く問題で課題が見られた。
- 小学校算数では、全国と比較して、全体的に無解答率が高い傾向が見られた。また、除法や単位量についての理解に課題が見られた。中学校数学では、式やグラフなど数学的に表現されたものを事象に即して解釈することに課題が見られた。
- 中学校英語では、全国平均を超えているのは21問中6問。特に「書くこと」において、文法事項等を理解して、正しく文を書くことに課題がある。

2 児童生徒質問紙調査（生活習慣や学習環境等の調査）の結果の概要

(1) 良好な項目

- 「人の役に立つ人間になりたい」「いじめは、いけないことだと思う」割合は、引き続き小・中学校ともに全国平均より高く、健全で良好な意識を持っている。
- 「将来の夢や目標を持っている」割合が、小・中学校ともに全国平均を上回った。
- 小・中学校ともに、朝食、起床に関する質問で、全国平均を上回った。また、中学校は就寝についても全国平均を上回り、基本的な生活習慣が身に付いている。
- 小学校では、「1日1時間以上勉強する」割合が全国を上回っている。
- 中学校では、「読書は好きである」割合が全国平均を上回っている。

(2) 課題がある項目

- 「難しいことでも、失敗を恐れず、挑戦する」割合は、小・中学生ともに全国平均を下回っている。
- 「家で、計画的な勉強をする」割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っており、特に中学校は、「2時間以上勉強する」割合とともに、全国平均を大きく下回っている。
- 「地域の行事に参加している」割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っており、特に小学校は、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」割合とともに、全国平均を大きく下回っている。

3 改善の方向性

- ①基礎・基本定着のための方策 ⇒ (例)「あじさいBOX」や県の学習プリント集などを活用した全校一斉の取組
- ②課題改善のための授業づくり ⇒ (例)「自分の考えやその理由等を書く力や伝え合う力」「情報を整理し、理解する力」を伸ばす授業づくり
- ③校内研修の充実 ⇒ (例)「主体的・対話的で深い学び」の視点による研究授業・協議の実施、「呼ばれたら行く」事業の活用
- ④家庭学習の習慣化と質的向上 ⇒ (例)家庭学習の仕方についての具体的な指導、行った家庭学習に対する事後指導の充実、家庭との連携
- ⑤チームで取り組む学力向上 ⇒ (例)「6つの視点」「学力向上カレンダー」「4月と同じ調査問題による検証」等の取組

学校・家庭・地域が一丸となった継続的な取組推進